ふくろう新聞

＜発 行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/

第 11 回ふくろうふれ愛まつり

生きたい！平和に　自由に　楽しく　友と

平成28年10月23日（日）、第11回ふくろうの郷ふれ愛まつりが開催されました。今年のテーマは、「生きたい！平和に　自由に　楽しく　友と」。中央舞台では、衆議院議員の西村康稔様をはじめ、国会議員・県会議員、洲本市長や市議会議長の皆さまにも御列席いただきき、お祝いの言葉を頂きました。また地域交流スペースでは、今年のテーマにちなんで、平和を考える展示を行いました。中川原ふれあいセンター（中川原中学跡）では、さくら食堂を開店いたしました。また12時から作業スペースにてマグロ解体ショーを行いました。中川原地域の方々をはじめ、県内外の手話サークルやろうあ協会など遠方からもご参加いただき、総勢１千名の参加でした。

尼崎市が市制百周年新「尼崎市史」「たどる調べる尼崎の歴史」を刊行されました。そのなかに戦時中に多くのろうあ者が尼崎精工という軍需工場で働いていた事実が、市の公式刊行物に初めて掲載されました。機会がありましたら是非お読みください。

中川原小学校の皆さんから感想をいただきました

手話の発表は緊張したけど楽しかったです。おとうさんとおかあさんが来てくれました。（2年生）　舞台の上ではおとうさんとお母さんしか見えませんでした。来年も来たいです。（2年生）　ぼくはふくろうの郷祭りで自分の名前や手話や「あの青い空のように」という歌を歌いながら手話をしました。ぼくは自分の名前の手話が一番上手に出来たと思います。（4年生）

ぼくたちがつくったうめぼしと、3～4年のひじきは1分28びょうで、うれました。ぼくはひじきがすきなので、うれすぎたけどかなしかったです。（2年生）

わたしは、自分の名前できていたけど、うたやすきなことは、手話はできませんでした。とてもおぼえるのがたいへんでした。（4年）　手話で緊張したけど、みんな、はくしゅをしてくれたのでとてもうれしかったです。（2年生）

「第 11 回ふくろうふれ愛まつり」写真コンテスト応募作品募集

12 月 15 日まで

ふくろうふれ愛まつり

B級グルメ大会

模擬店では、各団体が自慢の腕をふるって下さいました。ふるまいの赤飯がなかったためか、販売開始してわずか15分で完売したところもあり、大賑わいでした。出店された皆様、有難うございました。

B級グルメ大会の結果は次の通りです。

☆B級グルメ大会　投票結果☆

1位　神戸ろう協垂水支部　（チヂミ焼き）
2位　豊岡ろうあ協会　（からあげ）
3位　手話サークル津名　（たこ飯・豚汁）
4位　男の料理講座　（鹿カツ）
5位　手話サークルあわじ　（ソースせんべい）
　　手話サークル三原　（みたらし団子）

《1位受賞のコメント》
神戸ろうあ協会垂水支部
・手話サークル垂水の皆様

こんな賞をいただけて嬉しいです。毎年参加していますが、来ていただいている皆さんにおいしいチヂミ焼きを食べてほしいと頑張っています。いろんな方に「おいしい、おいしい」と言っていただけて嬉しいです。本当にありがとうございます。

垂水支部・サークル垂水の皆様、おめでとうございます！

舞台発表

舞台では、中川原保育所や小学校の子どもたちが覚えた手話を披露してくれました。子供たちから「緊張したけど、楽しかった」「また来年も行きたい」「もっと手話を覚えたい」などの声を頂きました。

入居者の発表では、「今の生活がずっと続くように」と気持ちを込めて自分の戦争体験をお話ししてくださいました。戦争を知らないたくさんの方々にも聞いていただけ、戦争について考えるいい機会になったように思います。戦争のない平和な社会がこれからも続くように・・。私たち職員も入居者の方や地域の方と「ともに生きる」社会を広めていけるよう頑張りたいです。

体験を語る北川さん

マグロ解体ショー、大盛況！！

マグロの解体ショーで使ったマグロは、予定の40キロを越す、52キロ！大きなサイズに圧倒されながらも、目の前で解体されていく様子に食い入るように見ておられました。振舞ったお刺身は約600人前。解体したばかりのお刺身を味わって頂き、「美味しかった」と嬉しい声をいただきました。

京町料理　みつや
松村　知典様

先日は楽しいお祭りにお招き頂き、ありがとうございました。52キロもあるマグロは卸したことがなく、最初は不安でしたが、皆さんが食い入るように見て頂いているのを肌で感じ、とても楽しく解体させて頂きました。身振りや手話で、またお声掛けで、「美味しくいただきました」と伝えて頂き、大変嬉しく感じております。また、皆さんの素敵な笑顔がとても印象的でした。あちこちでお見かけした満面の笑みを今日の励みとして、美味しい料理を作っていきたいと思います。温かく迎えてどうか皆様、お身体ご自愛下さいませ。

全聴福研
レポート報告

人生を語る・人生から学ぶ
～ふくろう学びあい文庫～

はじめに

7月4日、淡路ふくろうの郷(以下「ふくろうの郷」)を会場に、「ふくろうまなびあい文庫」の①②の完成を祝って、ささやかなお祝い会が開かれました。

まなびあい文庫は2015年5月3日に創刊され「一人ひとりが大切に尊重され、共に生きる社会を実現していくために活動している多くの人たちに高齢ろう者の経験と知恵を届けるためにと、『まなびあい文庫』創設の目的を掲げています。現在では③④まで発刊されております。

自分史づくり

ふくろうの郷が5周年を迎えたとき『開所5周年記念誌　地域で生きる　暮らしをつくる』を発刊しました。発刊にあたって書かれた文章の中に「施設には社会問題が持ち込まれるといわれてきました。老人ホームも例外ではありません。ふくろうの郷には『人生』が丸ごと持ち込まれました。しかし、ほとんどの方がたの人生は『空白』です。入所者のほとんどが自らの人生を伝えるべき共通言語の獲得を阻まれてきました、客観化できずに来たという事実そのものが人権問題であり、社会問題だといえます。その社会問題＝その内実に迫る、いのちや健康の保持、楽しみな暮らしづくりを統一的に取り組むことが、ふくろうの郷の理念である『一人ひとりを大切に＝人権　共に生きる＝共生』の実践目標です。

ふくろうの郷には、「自治会活動(入居者主体の生活作り)」「ふくろう工房(働く場)」「ふくろう大学(学びの場)」「ゆったり寛ぐ」という「暮らしの4つの基本柱」があります。平成23年には、そのなかの「ふくろう大学(学びの場)」を活用し自らの人生を振り返り、語り合う、「回想法」によるグループワークが行われていました。この取り組みの中で、「淡路ふくろうの郷・ふくろう大学自分史編纂委員会」が発足され、勝楽進さん、佐代子さんご夫婦への聞き取り調査で語られた内容を書き起こし、委員会が編集することで、『勝楽進・佐代子　自分を語る』が2012年に完成しました。

自分史を「ふくろう学びあい文庫」に

入居者・黒﨑時安さんは、平成22年7月17日兵通研淡路地域班の学習にて自分の壮絶な人生を語り始めました。そこから人生をひも解く作業を行っていきました。DVD『黒﨑時安　人生を語る』を制作その後、施設見学者や学校やいろいろな団体からの依頼を受けて出前講座等で人生を語る機会が増えました。

むすびに

自分史づくりというのは、広義のケアプランであると思っています。人生をひも解き、かつて自分がやりたかったこと、人生でやり残した宿題を解いていく作業に似ています。

自分史づくりに関わって感じることは、入居者自身が今まで、負の遺産だと感じていたことが、その話に耳を傾け、受け止めてくれる人がいると感じられることで、プラスに転化していく。そういう光景を目にしているような気がします。

苦難の人生を誰にも語れず、胸に秘めていたことも、ふくろうの郷で自分の人生を赤裸々に語る仲間たちの様子。耳を傾けてくれる人たち。今まで否定的にとらえ、誰にも言えなかったことを語り、意味づけされたとき、負の遺産は輝きを放ち、自己否定していた過去が自己肯定に変わっていきます。

一人ひとりに違った人生があり、その人生は宝物です。それをご本人が宝物と感じられるよう意味づけするのが、この編集に関わる職員、支援に関わる職員の役割だと感じています。

(ふくろうまなびあい文庫編集委員　橋詰恭子)

▲黒崎時安さん

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

大田原　豊様（79歳）は淡路市一宮町で生まれこれまでお兄様ご家族とご自宅で生活されていましたが、９月５日付で淡路ふくろうの郷に入所されました。

数十キロの距離を自転車で通学

大田原様は先天性ろうあ者で12歳の時に淡路ろう学校小学部に入学、19歳で卒業されました。毎日、自宅のある淡路市（旧津名郡）からろう学校のある洲本市まで自転車で通学されたそうです。学校卒業後は兄と一緒に海の突堤を作る仕事をされていましたが、のちに兄が牛の飼育を始めたので、一緒に牛の飼育、農業のお仕事をされてきました。

ふくろうの郷に入所される前は、朝夕の牛のお世話するかたわら農業もされ、休むことなく毎日仕事をしてきたと話されました。

お互いを祖父・孫のように

兄夫婦、甥御様ご家族と一緒に生活されていた大田原様。甥御様のお子様を自分の孫のようにかわいがり成長を楽しみにし、また、祖父のように慕われていました。現在は社会人、大学生となられ島外で生活されていますが、淡路に帰省された時には、一緒にドライブや買い物、食事に連れて行ってくれることなど目を細め嬉しそうに話されていました。

念願だったふくろうの郷への入所

10年前のふくろうの郷開所当時から、老後はろう者と交流し、手話で話せ気兼ねなく交流し、生活できるふくろうの郷へ入所したいと思っておられ、今年９月に入所がかないました。以来、誰よりも早く朝の会に来られたり、ふくろう大学の習字、小学生との交流など率先して参加されていました。また「食事もおいしい、ふくろうの郷で長く生活したい」と話されていた矢先の10月31日に急逝されました。もっと長く生活を楽しんでほしかったと残念でなりません。ご冥福をお祈り申し上げます。

▲ふれ愛まつり模擬店で買い物を楽しまれる大田原様

また来年も参加したい

ふくろうふれ愛まつりに受講生がボランティアで参加

10/23

第11回淡路ふくろうふれ愛まつりに手話奉仕員養成講座の受講生もボランティアとして参加されました。マグロの解体ショーでは長い行列ができ、列の整備をしたり、販売をお手伝いしたり、入居者様と一緒に模擬店を回ったりするなか、手話で交流されました。

習いたての手話で交流　来年はもっと会話を楽しみたい

「十分にお手伝い出来ませんでしたが、入居者の皆様とも習いたての手話でお話しも出来、とても楽しい1日でした」「来客の数に驚いた。手話をもっと勉強し、来年のふれ愛まつりにはもっと会話が理解できるようになればと思う」などの感想をいただきました。

▲ボランティアで参加された受講生の畑田様（左）と中田様（右）

だれもが感じる温かさと包容力で

神戸ろうあハウスデイサービスセンター

神戸市が介護予防事業の制度変更

介護予防事業がろうあハウスデイサービスとしては特定高齢者の登録がないので、歯科衛生士、管理栄養士の担当は９月で終了。それに伴い看護師さんの担当も10月で終了しました。神戸市の考えでは特定高齢者のいる場合は来年３月まで各事業所でやる、４月からは生きがいデイサービスの総合事業に移行と共に、各区で１ヶ所にまとめて開設する方針です。ただ、独自でやりたい事業所はやってよいとのことです。

ろうあハウスデイサービスでは独自で継続

ろうあハウスデイサービスとしては聞こえない高齢者に「健聴の事業所へ行ってください」とは言えません。神戸ろうあハウスは独自で継続していく方向で専門職にも継続をお願いしています。ただ介護予防開始の平成18年から関わって下さった看護師の平元さんから、担当を下りたいとの申し出があり、10月の第４週目、「食事と運動」の内容が最後のお話しとなりました。昨年、ご自身が大病をされ「食事と運動」の大切さを改めて痛感されたようです。今後はご自身の体力回復に努めたい、中途半端では申し訳ないと思われたようです。

▲10 年間関わっていただいた平元悦子看護師

今後も主要スタッフの一員として

そんな実直で、誰もが感じる温かさと包容力は利用者さんだけでなく、スタッフからの《信頼も抜群！！》の所以です。ろうあハウスデイサービスとしては、今の看護師さんの気持ちを尊重しつつも、今後の事業には欠かせない主要スタッフと思っています。今はろうあハウスの早期移転と新規事業、看護師さんの健康を祈るばかりです。（眞木崇江）

中川原高齢者・障がい者
地域ふれあいセンター

〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原222-2

「さくら食堂」がオープンしました。

ふれあいセンターの次なる計画、「食」の交流を目指す場「さくら食堂」が10月23日（日）ふくろうふれ愛まつりにあわせオープンしました。

メニューはぜんざいと揚げたこ焼き。今回はふれあいセンターコーディネーターさんが中心となり食材の買い出しから仕込み、当日販売まで担当してくださいました。

初めての試みだし、お客さんは来るのだろうか…という不安をよそにオープンすると間もなくお客さんが！その後も途切れることなくお客さんが来られ昼過ぎにはすべて完売！完売後も「せっかくぜんざい食べに来たのに…」と嬉しい（？）クレームもいただきました。

まだまだ試行段階のさくら食堂ですが、今後も不定期ですが開催していき地域の方々の要望にできるだけ添う形の「場」を作っていきたいと考えています。

（濱田）

ふくろうふれ愛まつり 子ども楽しめるゲーム

ふれあいセンターでは、子どもが楽しめるゲーム企画等（スーパーボール、ヨーヨー釣り、シャボン玉コーナー、ポップコーン、綿菓子）行いました。一番人気はシャボン玉コーナーで青空一面シャボン玉がひろがっていました。

また、建物内ではフリーマーケット、地域の方の陶芸や手作り品の販売を行っており、こちらも大盛況。

来年も皆さんに楽しんでいただける楽しいイベントを企画したいと思います。

～おのころ屋の展望～

洲本市本町商店街で開業して６年目を迎えようとしています。開業当時はマニュアル本を見ながら専門用語に頭に捻り、失敗を繰り返しながらクッキーを焼いていました。焼き菓子の軌道にのり、意欲が出てきた頃にパンの製造を始めました。今では常連のお客様も増え、食パンの予約も入るようになってきました。

開業時からのメンバーで製造責任者の橋本さんはおのころ屋全体を取りまとめ中心的存在。若手の堂丸さんは惣菜パンとクッキーの型抜きのプロ。

小嶋さんは最長年（７９才）ながらフットワークも軽く、にこやかな対応で移動販売には欠かせません。

このようにメンバーそれぞれの特性に合った力が蓄積されてきました。２年後に中川原スマートインターでの事業に個々のパワーを発揮できるように職員も更なる努力を重ね支援したいと考えております。また、新たな事業への移行も視野に入れてアンテナを張り巡らせることも課題の一つとして考えています。地域住民の皆様の協働できる場が一日も早く実現できることをおのころ屋一同願っています。（岡本）

続々・地域を語る
中川原むかし話
かるた　口説き　NO28

北岡　肇

⓪のどかなる　ふるさと
中川原の緑を大切に

黄金の実る秋の取り入れも終り、のどかなる。ふるさと中川原の里も冬支度へと季節は移り変わっています。広さ13・05平方キロメートルの中川原町（中川原町について後で詳しく書かせていただきます）、稲の栽培面積は、大正年間は、約500ヘクタール、昭和年間、戦後20年頃は、300ヘクタール、昭和40年代から始まった米余りによる減反（栽培面積を減らす）政策によって稲の栽培面積は、100ヘクタール余りとなっています。

農業従事者の高齢化、人口減少によって休耕田など作物を栽培しない農地が増えつつあるのが現状です。中川原の面積の約半分は山や森、林。そのうえ農地が雑種地となり、竹や木が茂り、緑が増えつつあります。

私たちの生活にとって、以前は、燃料は薪や炭でありました。そのため里山の木は切り倒され、炭を焼く煙も立ち昇っていました。しかし戦後は石油やガスにとって変わり、生活の様変わりによって里山のていれも材採もなくなり自然放任となり、最近ではイノシシやイノブタの住みかとなり農作物を荒らしています。

“中川原の緑を大切に“

宅地造成や土砂の採取も景気の不透明を受けて、中川原の自然や緑は残されています。緑は私たちが生活していく中で大きな栄養を与えてくれています。感謝しながら守っていきましょう。

本町・市原地内で平成30年の完成を目指してスマートインターの建設が進められています。中川原の玄関口になるのではないでしょうか・・・。

※中川原村史を参照

いつもご支援ありがとうございま

ふくろう募金が、1,101,699円となりました。前月より14,540 円の増額です。
（11 月 1 日現在）

ふくろうカレンダー

入居の方々ほのぼの絵葉書がいっぱい

このカレンダーは、ひょうご聴障ネットが毎年販売しているものです。一部 500 円で普及しています。お問い合わせ、ご注文は「淡路ふくろうの郷」まで

ひとりひとりを大切に　ともに生きる

ひょうご聴覚障害者福祉事業協会では職員を募集しています

～あなたもともに働きませんか～

・特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
（生活支援員・看護師・調理員）
（詳細はお問い合わせください）
0799-25-8550（橋詰）まで

行事・予定

11/9　（水）洲本高校人権講演会
11/16（水）湊川短期大学ゲストティーチャー
11/19（土）　理事会・評議員会　職員採用試験
11/26・27 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会（京都）
11/28(月)　社会貢献団体表彰式（東京）
12/2（金）　避難訓練
12/8（木）　法人事務局会議